

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2013年6月)

発表日2013年7月10日(水)

～上昇基調を維持～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 高橋 大輝

TEL: 03-5221-4524

(単位: %)

		国内企業物価		最終消費財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価 (円ベース)		輸入物価 (円ベース)	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
2012	1月	▲ 0.1	0.3	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 0.1	0.1	▲ 0.5	▲ 4.7	▲ 1.9	1.6
	2月	0.2	0.4	0.4	▲ 1.2	0.2	0.2	1.9	▲ 3.7	2.1	2.0
	3月	0.5	0.3	0.7	▲ 1.2	0.5	0.2	3.5	▲ 0.4	6.1	6.2
	4月	▲ 0.2	▲ 0.7	▲ 0.6	▲ 2.1	▲ 0.3	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 2.9	0.2	1.1
	5月	▲ 0.4	▲ 0.9	▲ 0.5	▲ 1.9	▲ 0.4	▲ 1.1	▲ 2.4	▲ 3.6	▲ 2.8	▲ 2.2
	6月	▲ 0.6	▲ 1.5	▲ 0.5	▲ 2.1	▲ 0.7	▲ 1.8	▲ 1.3	▲ 4.3	▲ 2.9	▲ 3.4
	7月	▲ 0.7	▲ 2.3	▲ 0.5	▲ 2.4	▲ 0.6	▲ 2.4	▲ 1.1	▲ 4.4	▲ 2.9	▲ 6.0
	8月	0.2	▲ 2.0	0.1	▲ 2.1	0.1	▲ 2.3	0.1	▲ 2.6	0.0	▲ 4.2
	9月	0.2	▲ 1.6	0.4	▲ 1.3	0.3	▲ 1.7	▲ 0.1	▲ 2.2	1.5	▲ 0.9
	10月	▲ 0.1	▲ 1.1	0.0	▲ 0.9	▲ 0.2	▲ 1.4	0.7	▲ 0.5	0.0	▲ 0.4
	11月	▲ 0.1	▲ 1.1	▲ 0.1	▲ 1.0	▲ 0.1	▲ 1.4	1.3	1.2	1.3	1.1
	12月	0.4	▲ 0.7	0.3	▲ 0.5	0.4	▲ 0.9	2.2	3.7	2.9	3.3
2013	1月	0.2	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.5	0.2	▲ 0.6	4.6	9.0	5.3	10.8
	2月	0.5	▲ 0.1	0.4	▲ 0.5	0.4	▲ 0.4	3.3	10.5	4.2	13.2
	3月	0.1	▲ 0.5	0.0	▲ 1.2	0.1	▲ 0.8	0.8	7.6	1.5	8.2
	4月	0.4	0.1	0.0	▲ 0.6	0.3	▲ 0.2	0.7	8.9	1.5	9.6
	5月	0.0	0.5	▲ 0.3	▲ 0.4	0.0	0.2	1.5	13.3	1.1	14.1
	6月	0.1	1.2	0.1	0.2	0.1	1.0	▲ 2.7	11.7	▲ 3.2	13.8

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)は夏季電力料金調整後の値。

○上昇基調を維持

日本銀行より発表された2013年6月の国内企業物価指数は前年比+1.2%とコンセンサス(同+1.2%、レンジ: 同+0.8%~+1.5%)通りの結果となった。前年比では3ヶ月連続の上昇となり、伸び幅も拡大した。1%以上の上昇は2011年11月以来となる。また、前月比では+0.1%と小幅上昇となり、ペースは鈍化しているものの昨年12月からの上昇基調を維持している。

前月比の内訳をみると、上昇に寄与したのは電力・都市ガス・水道、石油・石炭製品、業務用機器、食料品・飲料・たばこ・飼料などであった。電力の上昇は、過去の燃料費上昇が反映されたことによるものとみられる。また、ガソリン価格が上向き始めたことなどから、石油・石炭製品が上昇に寄与した。一方で、国際商品市況の下落や円安基調が一服したことなどを背景に非鉄金属が低下に寄与した。

○円ベースの輸出物価は9ヶ月ぶり、輸入物価は11ヶ月ぶりの前月比マイナス

円ベースの輸出物価は前月比▲2.7%(前年比+11.7%)、輸入物価は同▲3.2%(同+13.8%)となった。前年比ではともに大きく上昇したものの、輸出物価は9ヶ月ぶり、輸入物価は11ヶ月ぶりの前月比マイナスとなり、上昇が一服した。金融市場の混乱に伴う円安基調の一服が影響している。ただし、足元では円安傾向での推移に戻っており、輸出入物価が下落基調に入ったとはみていない。また、このところ交易条件(円ベースの輸出物価指数÷輸入物価指数で計算)の改善の動きがみられることは明るい材料だろう。景気回復による販売増や価格転嫁がどれだけ進むのか、輸出の数量面での効果がいつごろ本格化し始めるのかと

ということが注目される。

○消費財の国内品が前年比でプラスに

需要段階別指数（国内+輸入）をみると、素原材料は前月比▲3.0%（前年比+11.9%）、中間財は同▲0.4%（同+3.5%）、最終財は同▲0.4%（同+2.1%）であった。また、消費者物価と関連の深い消費財の国内品は前月比+0.1%（前年比+0.2%）と小幅上昇した。前年比では2011年9月以来のプラスとなった。川上製品から川下製品への価格転嫁が徐々に進みつつあることが示唆される。素原材料や中間財の価格は均してみれば上昇傾向での推移が続いており、今後国内消費財への波及が強まってくることが予想される。

○先行きも緩やかな上昇基調が続く見込み

このように、6月の国内企業物価は上昇基調が維持された。先行きもこうした動きが継続するとみている。まず、国際商品市況は米国を中心に海外経済の回復が進むことで需給が改善し、緩やかな上昇基調に戻ると考えられる。為替についても、足元で金融市場は落ち着きを取り戻しつつあり、再び円安基調の推移となっていくだろう。国内景気の好調さを背景に需給の改善が続いていくことも見込まれる。また、今後も大手電力会社で電気料金の値上げが予定されていることや電力やガスの過去の燃料費単価の上昇が続いていることも、国内企業物価の押し上げ要因となる。こうした動きから先行きの国内企業物価は、緩やかな上昇基調を維持するだろう。

